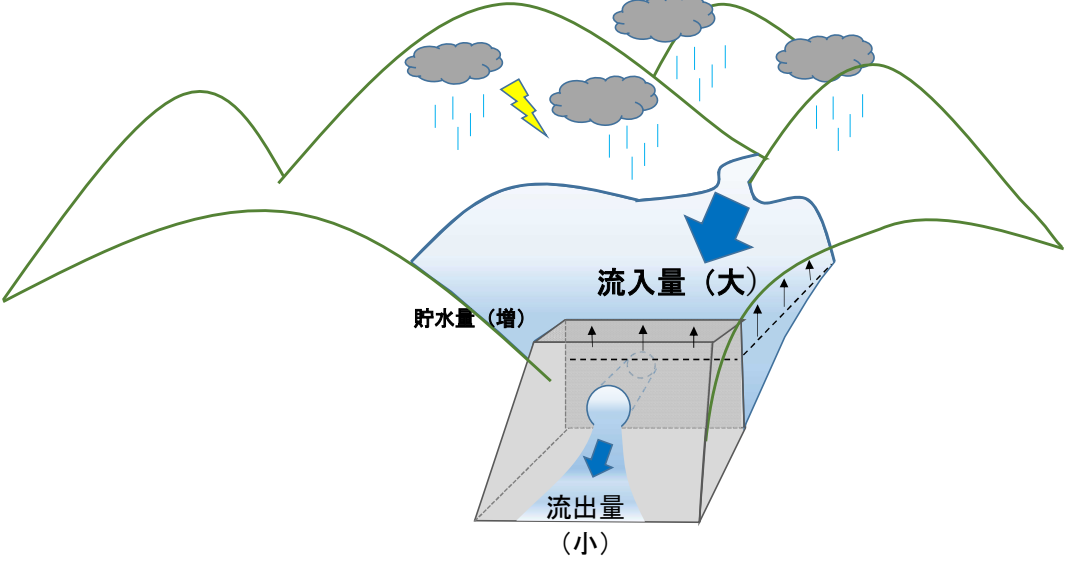


ダムの役割について

● 治水 (洪水調節)



洪水時に上流から入ってくる水の一部をダムに溜め、下流の川に流す水の量を減らすことにより、下流の洪水被害を軽減する効果を発揮しています。



【ダムの洪水調節とは】

ダムが無いと台風や大雨により、たとえば 100 の水が川を流れた場合、この川が 30 しか流すことができなかつたら、残りの 70 は川からあふれてしまいます。

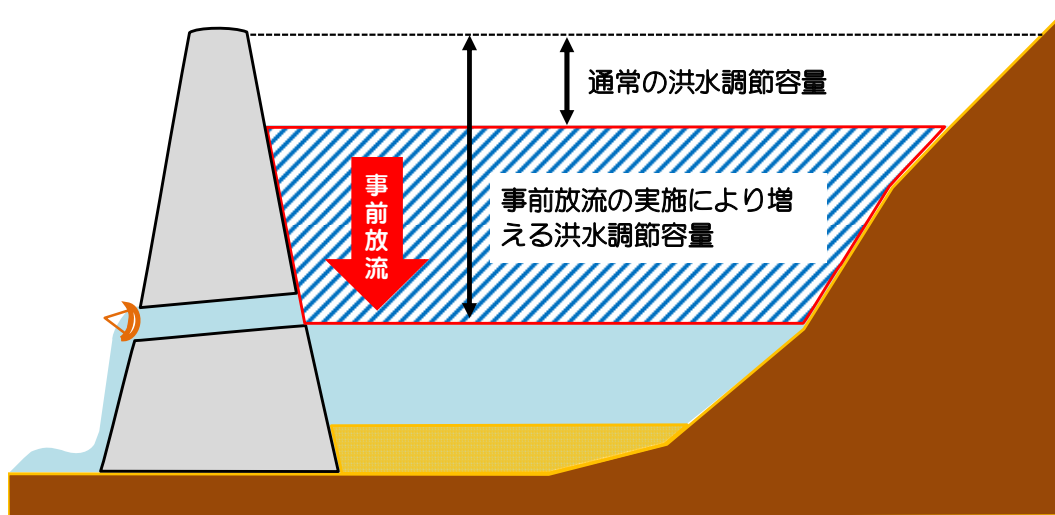
しかし、ダムができるとダムで 70 を貯めることにより、川と力をあわせて家屋等を浸水の被害から守ることができます。



【ダム の 事前放流】

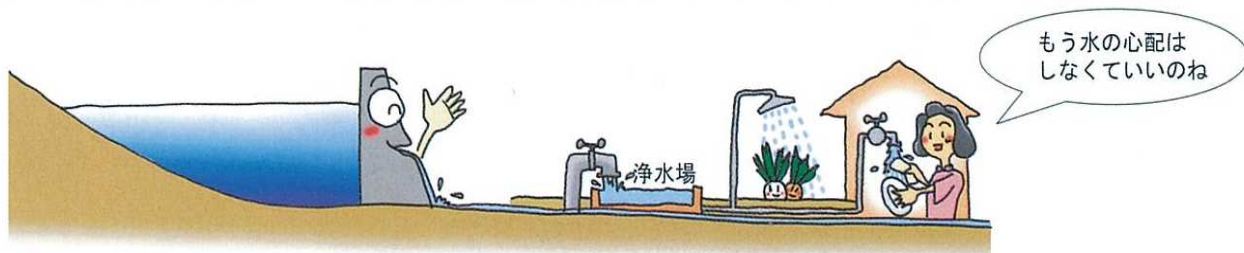
令和2年7月末に、県内のダムがある全ての水系で、治水協定を締結したことから、大規模な洪水が予想される時には、ダムに貯まっている水を事前に放流する【事前放流】が可能となりました。

これからは、大雨が降り出す前にダムの水位を下げて、ダムに溜められる水の量を増やすことで、下流の洪水被害を軽減する機能が強化されます。



● 利水 (都市用水の供給)

ダムによって河川の流量が豊かな時には水を貯留し、必要な流量が不足している時には水を供給して、年間を通して都市用水 (水道等) の安定的な取水を可能にします。



● 環境 (流水の正常な機能の維持)

本来河川が持っている機能 (動植物の保護等) を正常に維持するため、渇水時においてもダムからの流水の補給を行い、これらの機能の維持を図ります。



「異常洪水時防災操作」いわゆる緊急放流とは？

ダムの貯水量が満杯になり、これ以上水を溜められなくなった時に、ダムに入ってきた水が、ダムからそのまま自然に流れ出すような状態になることをいいます。

つまり、「ダムに入ってくる水の量 = ダムから流す水の量」とすることであり、『ダムが無い状態になること』です。

※今までダムに溜めていた水を、溜めずに流すことになるので、流す量が増えることにはなりますが、ダムに入ってくる量より多く流すことはありません。

